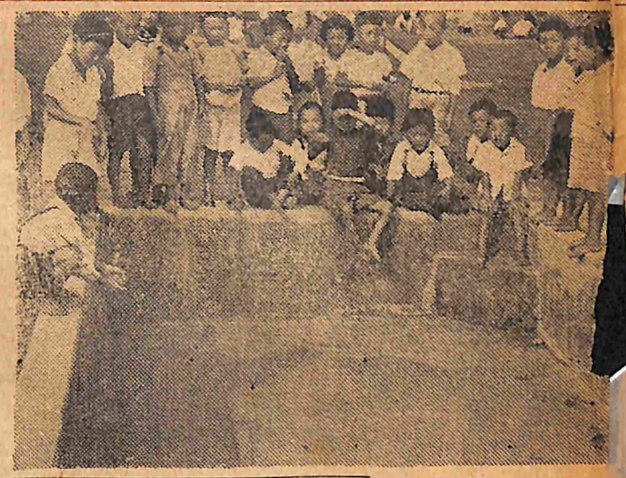
保育所に可愛いプール

自動給水器も完備

七万円を拠金　「母の会」と町民の贈物

昭和二十七年保育所を開設して以来、今年で三年目になるが、保育所に入所している子供さんの保護者でもつて組織している『金木町保育所母の会』では町の皆様に協力願つて、毎年のように子供さん達のためにと、絵本や遊具を寄付し、町当局や保育所側をいたく感激させている。しかし今年新築した保育所が、町財政上、設備の点で子供達に満足を与えられないのをみて、子供は水と砂さえあれば、夏の遊びに事欠かないだろうから『せめて水だけでも十分に与えましよう』と、安田百合子会長はじめ各町内の役員が発起人となつて会員に呼びかけ、一般の方々にも協力を依頼し、七万一千五百二十円の寄付を仰ぎ、うち六万円を自動給水器、一万円をプールの分として、保育所に寄贈、子供や保母さんから喜ばれている。

花田町長は『子供を中心にした母、をどう表わしていいかわかりませんが、子供達の喜ぶ顔そのものが、母の会への感謝の意を表わしているものと思うことに喜び』の会の方々の熱意には、感謝の意



【写真…寄付されたプール】

私たちの会は保育所に入つている子供の保護者でもつてつくつていますが、決して会員のみのためでなく、最終の目的は、会を通して町全体の子供さん達の幸福を願うのにあります。会員にやり易く、そして苦労のしがいもあるのです。将来も子供のために、会員全員で一致協力邁進する覚悟です。協力を惜しまない、町の皆様方にはただただ厚く御礼を申上げるのみです。と語つていた。

達のため、町のあ

郡北教育の中心

……独立開校二周年を迎えて……

特色は"生産との直結"

働きつつ学ぶ郡北勤労者青少年のための高等学校として、本校が独立開校してから早くも二周年を迎えるに至つた。いうまでもなく高等学校定時制教育は、経済的に時間的に恵まれない一般勤労青少年にも、恵まれた選ばれた少数の者同様に等しく高等学校教育の機会均等を保障し、教養と生産能力を高め、以て国家社会の進展に寄与せしめるという崇高な教育理念にのつとつて設けられた画期的な教育制度であり、しかも正規の学校教育として位置づけられた極めて特色ある教育制度である。このように生産と直結して働きながら学ぶという教育形態すなわち高等学校定時制並びに通信教育は義務教育の延長、男女共学と相並んで新教育制度の三大特色といわれている。

凡そその国の青年の動向は将来の国運を決すると申されている従つて一般勤労青少年の教育の再編成ということは国家としても重要な教育問題だといわねばならない。

このような観点に立つて、国としても、勤労青少年教育の重要性にかんがみ、働きながら学ぶ青年の教育振興を目的として、世論を結集し、昨年八月第十六国会において高等学校の定時制教育および通信教育振興法が制定され、これが、振興上諸般の法的措置が講ぜられるようになつたことはまことに心強い限りである。

幸い本校は地域社会の深い理解と、絶大なる御支援により昨年四月には相内分校、さらに今春四月には郡の北端小泊村にも分校設置を見、今や本校両分校併せて、五百余名の郡北勤労学徒が産業の開発と、民度の向上を目指して新しい、国づくりのセンターたるべく、真摯な態度で誇りと自信をもつて生産に勉学にいそしんでいる姿は、真に雄雄しいことといわねばならないかく郡北地帯に両分校が相ついで設立され、これによつて従来の六カ町村の学校組合がさらに八カ町村という全国にその類を見ない一つのモデル・ケースとしての学校組合が誕生し、文字通り五所川原以北小泊に至る五十キロに及ぶ広大な郡北学園としての、一大教育基盤が確立されたことは、教育振興のため御同慶の至りである。

次に関係各方面の特別の御尽力により、独立校舎新築着工を機とし、本校の持つ使命に思いを致し、いよいよ教育内容の充実を期するとともに、これが運営上各般の施策を考究し、以て地域社会の要請と向学の念に燃え立つ、働く青少年の要望に応えたい念願である。

ここに意義深い開校二周年を迎え、各位の御厚意を深謝するとともに一層の御支援御鞭撻を期待してやまない次第である。

中谷校長

金木高等学校長　中谷洲男

全国青年大会で惜敗

卓球県代表の金木チーム

去る八月黒石市でおこなわれた県予選に出場、卓球の部でみごと優勝した当町連合青年団栄利貞広、松江良子、西沢しげ子、田中みさ子の四選手は去る四日から東京の神宮外苑を中心に開かれた全国青年大会に駒を進め、善戦したが、二回戦で鹿児島に4—1で惜しくも敗れた。

【写真…全國大会に参加した北郡チーム】

金中、野球に優勝す

郡下中学体育　相撲個人では沢田君

北郡中学校秋季総合体育大会は去る九月二十六、七の両日芦野グランドを主会場に十五校参加して行われたが、金木中は野球で優勝したのをはじめ、各種目に善戦した各種目の優勝チーム次のとおり。

野球金中、卓球（男）五所川原中（女）板柳中、庭球（男）飯詰中（女）飯詰中、籠球（男）板柳中（女）板柳中、桑道板柳中、排球（男）松島中（女）嘉瀬中、相撲（団体）板柳中（個人）沢田一繁（金中）板柳中、ソフトボール（女）

金木から移民第二陣

秋元さん一家ブラジルへ

本年五月三軒町の気仙一家がブラジル移民第一陣として渡航したが、こんどは蒔田の秋元佐太郎さん一家が気仙さんの後を追つて去る九月十一日金木駅を出発した。

秋元さんは戦時中開拓団員として渡満し、敗戦で故郷に帰つたのであるが、ブラジル移民が再開されたということをきいて、勇躍参加を志望し、難しい移民審査に見事合格したもの。移民地は気仙さん一家と同じアマゾナ州マナカアー渡伯した秋元さんの家族は

暑さにまず閉口

気仙さんのブラジル便り

ブラジル移民の合唱叫い、今春五月七日金木駅を出発した気仙一郎さん一家から、三軒町の実家豊太郎さん宛に、元気一ぱいであるので非常に喜んでいた。

一世帯主秋元佐太郎（三四）をはじめ一男弘美（一三）妻ミセさん（三九）長男貞美（一七）二の各君である。

「ぎのような便りがあつた。

内地は稲刈りが始り、こき作のことと存じます。私どもも到着以来大変元気にて、赤道直下、真黒に

なつて、毎日マツト（原始林）で山切りをしております。

当地ベラビスタに着いたのは七月二十七日午後七時ごろで太陽が沈

暗い影の漂う「イダコ」

なぜ農村婦人は信仰する

去る九月二十七日中川青年団主催の郡下演劇コンクールが中川小学校講堂でおこなわれたが、金木青年団では金木音頭の紹介をかねた

片輪の父に手助け

感心な中谷君　郡民生委員大会で表彰

金木青年団、

金高で新聞展

金高では

金木カメラクラブで写真展

金木カメラクラブでは、十一月三日（文化の日）に、つぎの要領で『写真展』を開くことになり、一般の方にも多数出品されるよう勧んでいる。応募規定はつぎのとおり。

大きさ＝会員四ツ切以上、一般八ツ切以上。

出品点数＝会員三点以上、一般制限しない。

題＝自由であるが、会員は金木町を題材としたものを必ず一点出品のこと。

締切＝十月三十一日。

申込場所＝金木カメラクラブ（白常カメラ材料店内）

その他＝自作品を一般に紹介することを主にするため、審査はしない。したがつて出品した写真は全部陳列する。

なお出品者には全員に記念品を差上げる。

保育相談室

問　家の子どもは気に入らないことがあると、すぐにあたり散らし乱暴をします。何かというと、よその小さいお子さんをいじめるので、近所のお母さん方から、もちまちよい文句をいわれて困ります。どういうふうに導いたらよろしいのでしようか

【答」乱暴や人いじめをさせるものは何でしよう。どうもうちの子は乱暴でこまる。よその子をいじめてこまる。というときに『あなたは乱暴してはだめよ』とか『よその子をいじめてはいけませんよ』といつて、ただ、いいきかせることばかりしているお母さんがあります。

こういいますと、子どもはちよつとは聞くかもしれません。しかし大抵のばあいに、いいきかせただけでは、ことほどさまでは、すぐに乱暴がでてきますし、人いじめがはじまります。

いいきかせるということは、ただことの表面だけをなでているからなのです。乱暴や人いじめをさせるようにするものは何かその奥にある原因は何かということを考え、その方途をたてることが、もつと根本問題なのです。

手に負えぬ

いつでも自分の思うようにならないと気がすまない子です。欲をおさえることができないのです。親やまわりの人が、機嫌ばかりとり、甘やかしてきたかたとそ、わがままいじめもあります。から非常にがまたために、なのに、ならないと癇癪をうとおりにいかないいじめるとうたいます。つまり自己

金高で新聞展

金高では来月三日の文化の日を中心に秋の十和田音頭と二種目を参加させた出場者は男女合わせて十四名で、努力賞を授与された。

総会発表会を行うが、同校新聞部ではコンクールを賞を記念して新聞作製作過程、電送写真など実物を揃えるので社会科の勉強に役立つだろう。

が町では初めての試みであり、

イダコの集るところに暗い影を映しているイダコは、青森を中心の近県に多いとある中年婦人が、するのであるが。イ人の霊を降し貰うこの厳めであるが、何めを必要とするあるが、イダコの物思は、二あつて、相手に変りが書きの大本に幼稚な方法こう人にとつることである。人が現在何か、死霊に幼児である恐は、それあわれみなその死霊追憶、同情、恐ものが取りまれて、前に対する自分もたせる自然である。

また一方、未た時のように力強く指示ないので、心神的不安からして、生前のする他力的なる。このようると、イダコの夫道の社会慰安見出す来る。これを近にいうイダコを信仰医師婦人どうものを主としたが封建制家族社会生れ、育ち、その中に一員とはいうもの、そいであるというこ

カオペラはマナスの対分、アグアフロは自動オペラから四十程かかの私らのペラビスは本部のので本部事務の外に製材所、鉄工場修理工場配給所診療所、会、発電所などがあり、電気も通つています利用しているのはこの一部ですまません家族のしている本部事務所から約五百米離れていません。電灯は水道はありますが、潤沢でないので三百米位から行かねばなりません。本部にはトラック台、ブ台があ

カオペラはマナスの対分、アグアフロは自動オペラから四十程かかの私らのペラビスは本部のので本部事務の外に製材所、鉄工場修理工場配給所診療所、会、発電所などがあり、電気も通つています利用しているのはこの一部ですまません家族のしている本部事務所から約五百米離れていません。電灯は水道はありますが、潤沢でないので三百米位から行かねばなりません。本部にはトラック台、ブ台があ

でからでしたので、蚊に大変食われました。それでも暑さ元気で十時ごろまでに宿舎に荷物をトラックで運搬し、食事もせず寝ました。蚊は六時半ごろから八時、九時まではうるさく、その後はうるさくありませんが、蚊帳をつらすことも寝ることができません。

コロニヤ（植民地）アガアプールはベラビスタ、カカオペ、アグアフリアの三カ所で、私らもより一カ月間に十家族、九月四日ついた十八家族、それに私らの家族、計三十五家族が入植しております。（中略）

マナオスから当地（ベラビスタ）までは発動機船で六—七時間程かかり、コロニヤの船が定期的にマナオス間を往復しております。カ

第一陣 ブラジルへ

閉口 ブラジル便り

い影の漂う「イダコ」

なぜ農村婦人は信仰する

金高で新聞展

金高では来月三日の文化の日を中心に秋の

室談相保育

手に負えぬイタズラ

問　家の子どもは気の弱いようなことがあると、すぐにあたり散らし乱暴をします。何かというと、よその小さいお子さんをいじめるので、近所のお母さん方から、もちろんちょい文句をいわれて困ります。どういうふうに導いたらよろしいのでしょうか

【答】乱暴や人いじめをさせるものは何でしょう。どうもうちの子は乱暴でこまる。よその子をいじめてこまる。というときに『あなたは乱暴してはだめよ』とか『よその子をいじめてはいけませんよ』といって、ただ、いいきかせることばかりしているお母さんがあります。

こういいますと、子どもはちょっとは聞くかもしれません。しかし大抵のばあいに、いいきかせただけでは、ことはすみません。すぐに乱暴がでてきますし、人いじめがはじまります。

いいきかせるということは、たんだことの表面だけをなでているからなのです。乱暴や人いじめをさせるようにするものは何かその奥にある原因は何かということを考え、その方途をたてることが、もっと根本問題なのです。

こういうた子どもを直すには、まず小さいうちなら、乱暴したりいじめたりしたら全然とりあわず、相手にならないで放っておきましょう。そうすると、乱暴が役にたたないことがわかってしなくなります。まわりのものが大さわぎしたから、よけいにそうなったのです。

三歳以上の幼児でしたら、保育所へだすのもいいことです。

保育所という集団生活の中では乱暴したり、人いじめしたりすると、仲間はずれにされますから、そういうたことをたんだんにしなくなります。学校生活でも仲間の中でもまれて生活すれば、ひとりよがりなことをするとのけ者にされるのでしなくなります。

なにか満たされない気もちのあらわれが乱暴や人いじめになることもあります。わがままというほどではないけれども、満たされない気もちのはけ口が乱暴や人いじめになることはよくあることです。

しじゅう家で叱られてばかりいる子どもは、そのうっぷんばらしに、よその子に乱暴し、いじめるということになります。これはいつもおさえつけられてばかりいるために、自分というものを思うぞんぶんひろげたい気もちが満たされないで、そうなるのです。

親が、子どもの愛情をもとめる気もちに十分こたえないばあいにも、乱暴や人いじめが出てくることがあります。自分がちっともかまってもらえない。自分はかわいがられていないという気になると、これが爆発して乱暴になり、人いじめになるのです。この、なにか満たされないものがあるということが、困った行動の原因になっていることも多いものです。だから満たされないものを満たしてやれば乱暴や人いじめはなくなります。

子どもが、自分はお父さんやお母さんから、愛されているのだという気持を十分もてるようにかわいがってやりましょう。愛情えの飢えが子どもに感じられないようにすることが大切です。

これは、農村婦人のみではなく、全女性にとっても大きな問題であるか、このかせをつくっているのは農村社会であり、その家の在り方である。その家には家長と称する無知で、独断で、頑固で、独善で、高慢で名誉心が高く、独裁者で利己心の強いワンマン暴君が存在して、婦人の考えること、おこなうこと、日常生活の自主的活動を許さないことにその基調があるとみなすべきである。

今日は、人種的奴隷が実質的に解放され、資本主義機構下の奴隷化よりも救われようとしている時、農村にはなお前世紀以前の重圧が取除かれようともせずに残存していることは女性のみの関心ではなく、男性にとっても大きな関心を払わなければならない点である。

この祭りと、イダコ信仰を守る中年婦人の無知と、慰安方法の卑劣教養の低劣と同居している男性はこの種の婦人と日常生活を共にしていて満足しているであろうか。おそらく満足をしないままにこれを問題として取り上げることもせず、全く無関心に過ごし、自らの生活の向上をはばんでいることを少しも矛盾とも思わない社会環境に平然として昔のままでいることは男性の無知に基く恥を如実に現わしているものであるということができる。

（県社会福祉協議会　穂積　弘）

【写真＝㊤自己暗示にかかり泣きながら口よせるイダコ㊦荷物を背に負い踊り明かして楽しむパサマ達】

十和田音頭と二番目を参加させた出場者は男女合せて十四名で、

緑会発表会を行うが、同校新聞部ではコンクール賞を記念して新

れが町では初めての試みであり、製作過程、電送写真など実物を掲えるので社会科の勉強に役立つだろう。

イダコの集るところには、何かしら暗い影を映している。

イダコは、青森県を中心としてこの近県に多いのであるが、農村の中年婦人が、どうしてイダコを信するのであろうか。イダコに近き人の霊を降して貰うことは、一つの慰めであろうが、何故にこの慰めを必要とするであろうか。

イダコの物語りは、一定の形式があって、相手が変っても、その筋書きの大本には変りがなく、極く幼稚な方法ではあるが、降して貰う人にとっては、なかなか重大なことである。というのは、死んだ人が現在何を考え、何をしているか、死霊に対する恐怖と、死者が幼児である場合は、それに対するあわれみなど、その死者に対する追慕、同情、悔恨、恐怖といったものが取りまぜられて、死者の生前に対する自分の行為の妥当性をもたせる自慰的なものであるようである。

また一方、未亡人は夫が生きていた時のように生活のすみずみまで力強く指示してくれる者が現在いないので、心の寄り場を失った精神的不安から、せめてイダコを通して、生前の夫の指示を聞こうとする他力的な傾向もあるようである。このようにイダコの存在を見ると、イダコの盛んな地方には、未亡人の社会環境を見出すことが出来る。これを単純にいうならば、イダコを信仰する農村婦人は、家というものを基調とした奴れい的封建制家族社会に生れ、その中に育ち、その中に生きている家族の一員とはいうものの、それは奴れいであるということである。ワンマン暴君の下に生活したことが、なんら不合理にも思わない程の無

れた自主性を失ったあわれな女性の姿でもある。

つかれて、いかにもまずたらしい団子を供え、有難ってイダコのいうことに耳を傾けている姿には、ほほえましいとか、うるわしいと

そこには鉄今ものが後をたって無知とその後によされた因習が、奴れい的家族制度の生んだ奇型児標本のように陳列されていると同じであるといっても過言でない程のみじめさである。

てゆく乞食風の人々、きたなく汚れた風人たちが、互いに語り、夜を徹して踊り、果ては疲れて共に枕するこれらの婦人たちにとっては全く自由な解放されたレクリエーションの日でもある。

この祭のさまが、あまりにも素朴気をかもし出しているのは、たしかに異様であるが、この空気をさらにあおるかのようにみえるのがこの祭りに寄生している『イダコ』である。イダコの寄生は、こ

文を語っているこれらのさまは、半生紀近き昔の私の思い出をよみがえらせてくれた。

今に一度、オガサマたちが、それこそ夜を徹して楽しむこの祭は、神信心、仏参りを口実に、遠いところもいとわないでやって来る農村中年婦人の大きな楽しみで、同じような家庭事情のもとにおかれ

カオペラはマナオスの対岸で四十分、アクアフリアは自動車でカカオペラから四十分程かかります。

私らのペラビスタは本部がありますので本部事務所の外に精米所、製材所、鉄工場（修理工場）学校配給所診療所、教会、養鶏所、発電所などがあって、電気や水道も通っていますが、電気や水道を利用しているのはほんの一部分にすぎません私達の入っている合宿所は本部事務所から四五百米程しか離れていませんが、電灯はなく、水道はありますが、潮足に水も出ないので三百米ばかり行くなければなりません。

本部にはトラック二台、ブルトーザー二台、畑起し一台があり、私達は日曜日以外は毎日トラックでロッテに行っております。ロッテの番号は四十九番で、そこまでは二里程あって、出発は午前七時頃帰りは午後五時頃です。

私達のロッテ（土地、農地）は間口三百米、奥行千米の三千町歩で、カポイラ（再生林）は八年程前に山切りしたところが二町歩近くで他はマット（原始林）になっており、今そのマットを今月半ばで切り終り、次にカポイラを切って十一月中頃には山焼きする計画です。

来た当時コロニヤで四町歩切るから家を建てるといわれて半分造りましたが、人夫がいないからマットを切れというので家を建てるのを中止し、今現地人を入れて原始林を切らせています。再生林とも合せて四町歩は切り拓きたいと考えておりますが、何せ日中室内で三十二、三度、屋外の直射日光では四十度近くの熱さですから、内地のように思うように働けず、気はあせるが、仕事ははかどらないというわけで大変です。

このペラビスタを住めば都で、住み易い処です。来年になったらパナナ、パイン等二千本ほど植えましたから食べられるようになりましょう。その他の果実の木も植えようと考えていますが、なかなか手が廻りかねゝ、ちゃんとしたいこれもしたいと考えております。実現までは暫く待ちます。

（後略）

現金八万余円集まる

大火の小泊に温い見舞金

過日の小泊村大火義損金は民生委員、消防団、青年団、保育所母の会、三輪婦人会の協力で現金八万余円、衣類十八点が集まった。

洞爺丸犠牲者に弔慰金を

町当局が募集

青函連絡船洞爺丸の転覆を始め、漁船その他に多大の損害を与えた台風十五号の犠牲者に対し、弔慰金を贈るべく町当局では次の要領で義損金を募ることになった。何分のご協力を願いたい。

一、募金名称＝洞爺丸及び台風犠牲者弔慰金。

二、募金額＝制限しないが、弔慰金の贈呈対象は県内犠牲者とする。

三、募金方法＝各地域の民生委員を通し、役場民生係まで届けられたい。

一年間の成果示す

振った金高芸能発表会

独立開校二周年を迎えた金木高等学校では、これを記念して芸能部員が学業と勤労の余暇をみて練習第一分科会＝公民館活動と他団体

月二回コンサート

さわらびの会で

〝さわらび〟の会（二十一年度小学卒業生女子）のグループでは八月から毎月第一、第二日曜日の午後七時半から金木保育所でレコード・コンサートを催すことになっている。解説は一戸先生で一般の方々の参加も歓迎している。

低調な公民館活動

身近の問題から取上げよ

中里町において開催された第四回北郡全村教育研究会では『地域の問題をとりく公民館活動』を研究題として

第一分科会＝公民館活動の認識を

第二分科会＝公民館活動と他団体との関係

第三分科会＝公民館としての基本的事業

第四分科会＝公民館の当面する諸問題

の四つの角度から討議がなされた。私も初めて討議員として参加の機会を得て、今まで知り得なかった公民館活動の必要性と重要性について、啓発されるところ多大であった。

そこで私の参加した第一分科会の模様を述べて報告としたい。

公民館活動の現況

参加各町村より、最初現況の報告があったが、北郡では模範的だといわれる板柳、五所川原を除いては、各町村とも至ってその活動は低調であることが窺った。

貧しさが原因か

公民館活動不振の原因は、根本的にはやはり、戦後日本の貧しさによる。しかも公民館運動は、こうした不安定な基盤の上に立って、推進されているので、時期尚早の感がないでもない。即ち

イ、活動の中心となる公民館がない。

ロ、専任職員がない。

ハ、予算の不足。

というないづくしの現況がこれを憂書している。

しかしながらこの運動の必要性と重要性とは十分認められるので、出来る限り工夫を加えて、この運動は推進すべきである。

ではその対策は、どうしたらよいか。これに対しては

イ、啓蒙、宣伝をなすこと。出来るだけ機会をとらえて運動をなし地域の人々を啓蒙し、この運動に対する認識を高め、これがまた次の活動の推進力となるようにつとめる。

ロ、身近の問題から取り上げる。地域の人々にとって、必要でしかもすぐ実行出来るような身近の問題から取り上げて行く。たとえば『津軽時間の退放』など。

以上が第一分科会の話し合いの結論であった。

わが町はまずまず

最近、わが金木町においても、活発な活動が開始されようとしているが、これに対して既に反対の意見もまた活発化されそうである。

それは『公民館は、その地域社会の町村民が自由に活用し、自ら学び自ら楽しむことの出来るための社会教育の中心となる』べきものだということを知らないか、あるいは理解できないかに原因する。先に述べた啓蒙宣伝の疎かにすべからざる所以である。

独立の建物は不要

ただ最後に、必ずしも『独立の建物』を必要としないのだから、その機能に応じた兼用の公民館を設け、この活動の拠り処とすること及び若しこの運動を認識し、今後ますます推進する熱意を有するならば、多少の予算を割いて、職員は必ず専任とし、専心職務に従事さすべきであると思われる。これが討議に参加した私の感想である。

（金高教諭　鳴海和夫）

編集後記

○…『金木だより』も編集当局がサボったものですから、ここ二カ月ばかりご無沙汰してしまいました。次号からは計画通り発行いたしますから悪しからずお許し下さい。

○…本号からは金高の松江先生が協力下さることになりました。また町行政面ばかりでなく、町のいろんな問題もとりあげてみたいと考えていますからご期待下さい。

○…スペースの関係で、尾野作次郎先生や、大野草平氏の講演内容を掲載できませんでしたが、次号には是非と考えております。

（S・K生）

学校だより

▲金木高等学校生徒会新聞部では東奥日報主催の第七回学校新聞展に出品したところ、県下十七校参加の中からみごと『優秀』の成績を得て、過日賞状、奨励金並に教育長賞を授与された。

▲九月二十六日五所川原小学校でおこなわれた郡下席上揮毫に金木小学校も参加したが多数の入賞者があった。

△特選　（四年）髙田道子（一年）松山やすこ

△準特選　（五年）鳴海清子（四年）川口裕子

▲県下学童お話大会は去る八日青森県立中央図書館ホールでおこなわれたが、金小三年千葉敦子さん（北郡代表）は第三位に入賞した。

太宰治の肖像

金高鳴海先生も執筆

わが金木町の生んだ文豪太宰治の赤裸々な姿や、彼の苦悩、思想などを、多くの知人や友人によって語られている『太宰治の肖像』（豫書房刊、定価二百三十円）に、金木高校教諭鳴海和夫氏が『太宰治氏の憶い出』と題して〝人間太宰〟のゴシップをまとめて執筆しているが、一見をすすめる。

赤い羽根の力で

明るい生活を

10月1日から31日まで

共同募金運動期間

金木町

青森県共同募金会